

## ジョゼフ・ガーソン 平和軍縮共通安全保障キャンペーン アメリカ

場違いなネクタイをしていると思われるかも知れません。自宅待機が続くこの時期、家族の笑いを誘うために、毎日違った派手なネクタイを締めることにしているのです。

パンデミックは戦争と同様に、すでに進行していた深い構造的な変化を加速させています。世界の無秩序な構造と、政治的・軍事的・経済的権力の不均衡は、今や決定的変化のプロセスに入っています。新型コロナウイルスは、第一次世界大戦や大恐慌に匹敵するほどの影響をもたらしています。

### **独裁政治**

コロナウイルスは、スティーブ・バノンが「行政国家」と呼んだものに対する新自由主義的攻撃を弱めました。世界中で人々は自国政府に対し必死に医療と財政的支援を求めています。かくしてパンデミックは多くの国々で、国家権力とナショナリズムを強めているのです。

貧しい低賃金労働者、移民、有色人種の人々が何万人、何十万人とコロナウイルスの犠牲になるなか、あからさまで命を脅かす不正義と構造的暴力は避けられなくなっています。寡頭政治と金権政治の力がますます強まるのか、それともこれを打ち破ることができるのか、答えはまだ出ていません。私たちは全力を挙げて、しばらくは続くであろう厳しい経済的混乱が、1930年代のドイツのように、21世紀ファシズムの培養皿となるのを食い止めねばなりません。

短期的には、パンデミックは独裁主義政権を強めるでしょう。世界中で新たな立法や政令によって「政府が無期限に人々を拘束し、集会や表現の自由を侵害することが可能となり、それが市民生活、政治、経済に今後数十年にわたって影響する」と予想されています。ここアメリカでは、恐怖と自宅軟禁状態が、ハンナ・アーレントが言った「全体主義を強制する不可欠な条件」を創り出しています。しかしこれは不可避な結果ではありません。私たちがどう行動するかにかかっています。

ドナルド・トランプは、自分は絶対的権力つまり「全面的な権限」を持っていると言いました。議会を閉鎖すると脅し、強制力の行使に対する憲法上の制約を守り汚職防止に重要な役割を果たした国防総省と国家諜報機関の長官を解任しました。バー司法長官は司法省を独裁者の剣と盾に変えてしまいました。そしてトランプとその取り巻きはあらゆる手段を使って、11月に自由で公正な大統領選の実施を妨害しようとしています。

中国でも、当初の抑圧と嘘がパンデミックを拡大させました。しかし、ウイルスは全世界に拡大したものの、中国政府による全面的ロックダウン、進んだ諜報技術

と警察国家メカニズムは、一見したところウィルスを抑え込んだかのようにです。ハンガリーのオルバーン、インドのモディ、フィリピンのドゥテルテなどは、ウィルスを自らの独裁的権限を強化するのに利用しています。

### **権力をめぐる地政学的闘争**

一方、地域と世界的権力をめぐる地政学的闘争は、核兵器と気候危機という生存に関わる脅威の下でも続いています。それはまたトゥキディデスの罠という文脈でも起こっています。つまり新興国と衰退国の間の避けられない緊張から大規模戦争が勃発するという悲劇的な歴史です。

アメリカの権力と影響力はベトナム戦争以来低下しており、その傾向はアメリカのアフガニスタン、イラク、シリアでの戦争で強まっています。中国は今やアメリカの「対等な競争相手」とみられており、その経済、軍事、外交、そしてソフトパワーの面での影響力は、アジア全体と南の発展途上国におよび、ヨーロッパでも強まりつつあります。トランプのアメリカ第一主義と同盟国の軽視と疎外は、アメリカの衰退を加速させています。

ハーバード大学のスティーブン・ウォルトは、「コロナウィルスは権力と影響力の西から東へのシフトを加速させるだろう」と述べています。確かに、ヨーロッパとアメリカでのパンデミックへの対処の失敗により「西欧ブランドの力」は弱まりました。だからと言って、中国が当初パンデミックに関して真実を隠し対応に失敗したことが、中国政府に対する自国民と他国の人々の信頼を失ったことを無視することはできません。

ヨーロッパでは、分離主義勢力による EU の弱体化がいつそう進むなかで、ドイツとフランスは EU を主要な軍事的（おそらくは核を含む）勢力へと変えようとしています。ウィルスの蔓延を防ぐために国境が再び閉じられています。ハンガリーではオルバーン首相が大陸全体に続く幹線道路を封鎖しました。北欧の国々はイタリアやスペインにほとんど援助の手を差し伸べず、中国の影響力拡大に道を開きました。

約 30 年にわたり、ワシントンでは「中国の封じ込め」が絶対的な超党派のコンセンサスでした。オバマ政権が中国を軍事的・経済的に封じ込めるために、アジア基軸政策と TPP を導入したことを思い出します。今日トランプと共和党は、中国との新たな冷戦に突入し、自らの冷酷で計算ずくのコロナ封じ込め失敗の責任を中国に転嫁して、11 月の大統領選勝利を狙っています。中国強硬派グループは「中国に罰を与えて困難に陥れるために、新たな制裁を課し、米国内生産率を高め、米国からの輸出制限を行う」よう圧力を高めています。パンデミックはまた、米中経済の分断をはかるトランプとナヴァロ大統領補佐官のキャンペーンを覆い隠す役割を果たしています。

中国政府と国営巨大企業も罪がないとは言えません。中国は他国を無視して南シナ海の 80% の領有権を主張しています。膨大な知的所有権侵害に手を染めています

し、途方もない人権侵害は看過できないものです。しかしながら、サイモン・ティスドールが「ガーディアン」紙に書いたように、「ウィルスは、中国にとってライバルの超大国を追い越すためのソフトパワーの道具」となっています。

しかし、トランプがアジア太平洋の同盟諸国を遠ざける一方で、ペンタゴンは、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカへの配備を縮小してアジア太平洋への兵員配備を増加させています。ペンタゴンの支出を1千億ドル増加させた戦略戦力は、中国に対するアメリカの軍事的優位を維持するための新型核兵器を含む新たな兵器システムの開発と配備に当てられます。トランプ政権は、切実に必要とされているウィルス検査キット、人工呼吸器、マスクなどの防護用品を供給できない一方で、対中国の海軍戦力強化にはたやすく200億ドルを支出しています。

トランプがINF条約から離脱した時、トランプとペンタゴンの真の狙いは太平洋とアジアに中距離核を配備する道を開くことではないのかという憶測が流れました。そしてトランプとプーチンがより使いやすい戦域核の配備を競う一方で、これらの中距離ミサイルは西太平洋に配備されようとしているのです。

残念ながらまだあります。グテーレス国連事務総長のグローバル停戦の呼びかけは自国に当てはまらないと考えているのか、中国は最近、台湾の近海で危険な空軍・海軍演習を行いました。アメリカはこれに対抗してグアムでB-52爆撃機による「エレファント・ウォーク（象の行進）」演習を実施しました。そしてロシアが「限定的行動戦略」をウクライナ、シリア、リビアで継続していることも忘れるわけにはいきません。

中国は医療援助を戦略的に行っています。ウィルス蔓延の責任をめぐり、米中は非難合戦をする一方で、協力もしています。去る12月、中国はウィルスの遺伝子情報をアメリカ当局に提供し、それ以来ニューヨークに防護用品と人工呼吸器を送っています。中国は医療専門家と医薬品をイタリアとスペインに送っているため、一帯一路ユーラシア統合プロジェクトの一環としてのヨーロッパでの中国の影響力拡大は必然と言えます。一方、すでに中国に依存しているパキスタンとイランに対しては、援助するメリットはないと見て、ほとんどあるいはまったく支援を行っていません。

## **共通の安全保障**

恐怖と苦しみをもたらすパンデミックのなかで、新たな機会も生まれています。作家のアルンダティ・ロイは「歴史的にみると、パンデミックによって、人間は過去と決別して新たな世界を構想することを余儀なくされてきた...それは一つの世界から次の世界への扉であり、入口なのだ」と書いています。

パンデミックは、私たちが一つのそして相互依存した生物種であること、軍事第一主義と外国人排斥政策が私たちの安全と生存を脅かしていることを教えています。現在は「共通の安全保障」の概念を復活させるべき時です。これは冷戦終結の基盤となった理論的枠組みです。その核心は、相互の生存を達成するためには、双

方にとって有利な合意につながる外交が必要で、それは緊張を緩和し、軍備競争を減速させ、相互の安全保障を強化し、世界により多くの正義をもたらす、というものです。

今日、共通の安全保障をめざす外交は、パンデミックの治療法とワクチンの開発・普及の協力、大国間の緊張緩和、核兵器の廃絶、グテーレス事務総長のグローバル停戦呼びかけの支持、持続可能な気候の創造、経済的社会的正義の実現に、緊急に焦点を当てる必要があります。

現在、自宅待機を強いられた状況にありながらも、私たちには、民主主義を守ることはもちろん、たくさんやるべきことがあります。腰を据えて、人類が進むべき道を、ともに作り上げていこうではありませんか。